

日本 戦闘の 者



荒谷 卓（あらや たかし）
生年月日：昭和34年秋田県出身
略歴：昭和53年東京理科大学、陸上自衛隊に入隊、第19普通科連隊、調査学校、第1空挺団、第39普通科連隊、陸上幕僚監部防衛部、防衛局防衛政策課戦略研究室等に勤務。平成16年特殊作戦群初代群長に就任。平成20年依願退職（1等陸佐）。海外留学：ドイツ連邦軍指揮大学及び米国特殊作戦学校。
平成21年9月～30年10月、明神宮武道場至誠館館長。
平成30年11月三重県熊野市に「国際共生創成協会：熊野飛鳥むすびの里」設立、代表を務める
著書：『戦う者たちへ』『サムライ精神を復活せよ』『特殊部隊vs.精鋭部隊—最強を目指せ』並木書房／『自分を強くする動かない力』三笠書房
熊野飛鳥むすびの里のHPアドレス
<https://musubinosato.jp/>

040

昨年（令和4年）は、世界の大転換が決定的になった年であった。ウクライナ紛争を契機に、株式と債券の時価総額が45兆ドル減少した。それまでは、コロナ騒動下に、年間資産増額率が平均で40%を超えるという勢いで世界中の資産が富豪に集中し、世界の総資産の50%以上を長者番付上位20名が保有するという異常な現象が加速的に続いた。ところが昨年、それが逆転し、億万長者の資産が近年初めて減少したのだ。その中で、親露親中と言われるイーロン・マスク氏や、米露間で中立的な見方をしているブルームバーグ氏等だけは資産を増やしている。同じようにウクライナ紛争以降、米国債は信用を失い世界中の国々が売りに転じ、フランスやイタリア等欧州諸国でも保有総額の15%以上、BRICSは平均で12%、東南アジア諸国は軒並み20%～40%売却した。台湾（13%売却）やイスラエル（23%売却）も近年に例を見ない売却に転じた。日本と並んで1兆ドル以上の米国債保有国であった中国は、17%以上売却し保有残高が9,000億ドルを割り、なお売り続けている。

これに対して、一生懸命買い支えているのは、自国のインフレをさらに煽りながら買い続ける英国やケイマンなど少数で、米国は法律の制限枠目いっぱい買い支えてもデフォルトを免れない状況まで追い込まれた。気の毒なのは、事実上米国の占領下にあるイラク等で、この世紀の不良債権を70%も買い増しさせられている。ゼレンスキー大統領も、他国に巨額の資金援助を当たり前と言わんばかりに請求しておきながら、戦争を始める前の年から米国債を一気に300%超買い増しするという異常な勢いで買い入れて

いる。当然その金は米国から流れている。ドルで支えられている世界のマネー・システムで生きてきた個人資産家も相当の額をつぎ込んで米国の破綻を阻止しようとしているだろうが、結局、米国債海外保有高はウクライナ紛争が開始されて半年で約6千億ドル減少した。この超不良債権を世界ダントツの1位、1兆円以上保有しているのが日本であることを付言しておく。

前回の記事でも述べたように、ドルでしか石油を売買できなかったペトロドル・システムが崩壊し、オイルはルーブルや人民元で売買されている。世界の新興国と資源国のほとんどが、ロシアの金を担保にしたデジタル国際決済通貨に切り替え、ドルが支配した世界秩序は完全に崩壊した。これは、世界規模のバブル崩壊であり、GDPで国力を図る消費大国主導の時代は終わり、資源国が自国資源を正当なる自国資産・国力として活用できる世界へと移行しつつある。つまり、近代以降、アングロサクソン（英米）がリードして作ってきた世界制覇システムが崩壊したのである。

前回の4つのシナリオで言えば、「グローバルゼーションがさらに進展して、米国のコミットメントが継続する」シナリオ①はなくなり、「グローバルゼーションは進展するが、米国のコミットメントは後退する」代わって中国が台頭するシナリオ②と「グローバルゼーションが後退し、米国のコミットメントは継続する」シナリオ③の可能性は低くなった。

残るシナリオは、4つ目の「グローバルゼーションも、アメリカのコミットメントも後退する」シナリオ④である。

前回も言ったとおり、シナリオ④は、



令和3年8月、むすびの里の稲刈り。春の低温と長雨の影響で、予定が2週間以上遅れましたが、ようやく稲刈りができた。



令和4年8月、むすびの里の稲刈りが終わった。今年は豊作でした。神恩感謝。

大東亜戦争終戦以降、日本が日本らしく存在することを決定的に妨げてきた米国とグローバルリストのくびきから日本が解放される世界だ。日本人が日本人としての価値を取り戻し、自らの文化価値の中で生きていく覚悟を決めることができれば、日本は自立した大国として世界をけん引できるだろう。

ところが残念なことに、日本国も日本人も消滅する米国と市場のシステムに依存しきった状態から抜け出せない状況にある。それは、米国と市場によって作られ、教育とメディアによって煽動される偽民主主義を宗教的信仰のように信奉しているからだろう。「自由・平等・民主主義教」というイデオロギー上の独断的価値を無批判で受け入れてしまっているのだ。その教義に従って行動すれば、必ず平和な社会がおとずれ、一切の社会問題から解放されるという宗教的教義を疑うことをせずに信じているわけだ。唯一絶対的な「自由・平等・民主主義」というイデオロギーは、今の日本では政治上の救世主義で、これを信じないものは右翼だ、左翼だ、危険だ、カルトだ、陰謀論者だ等と悪魔のように批判され排除される。日本人の生き方そのものである神道や武士道精神を語った瞬間、「宗教だ!」「ゼンジダイだ!」という奴が、実はまさに「自由・平等・民主主義教」の宗教的信徒そのもので、彼らが信じている価値観は既に前時代の遺物化しているのだ。そして、このような狂信的な「自由・平等・民主主義教」教徒たちが日本を滅ぼす元凶なのだ。

自由だ、多様だと言いながら、常に造られた流行の中に生き、画一的で個性も主体性もない偽民主主義世界では、マスクだワクチンだと村八分のための踏み絵のようなことをし、多様なものの見方を否定する。決められた思考パターンと、決められた社会ルールに従い、決められた行動様式で生活する既製品のような生き方しかしていないせいで、「人権」を主張する。そこには1ミリの「人権」もない。そんな生き方をするものだから、間もなくAIとロボットにとってかわられ、人間としての生きる意味を失う。この人たちの言う権利は、身勝手や利己主義と同義語となっている。そして、無責任や他人の権利の侵害の口実に悪用される。

このような権利の上に立つ偽民主主義教の人達にとっては、義務も責任もどうでもよく、できるだけ権利を主張して、取れるものはできるだけ取り、義務と責任はできるだけ拒絶する。その結果、帰属社会や会社、そして国が困っても自分

さえよければいいことになり、社会集団としての体制は弱体化する。まさにこれが、「自由・平等・民主主義教」を広める者共の戦術であり、実体のない権利を餌に、それを主張する人も、その人が帰属する社会をも破壊するのが目的だ。

人間個人で言えば、試練に耐え、困難に挑戦し、自らの力で自らの未来を切り開いていこうという生命力が失われ、生きようとする意志の急速な衰弱は自殺へと向かうことになる。国家においても同じことが言える。日本人として一致団結し、協力して国難に対処し、日本人自らの力で日本の未来を築いていこうとする意志が失われた時、日本は自殺することになる。どこの国が攻めてこなくても、地球規模の天災に襲われなくとも、日本人自らが日本を殺すことになるのだ。

このようなことを、日本の戦闘者なら看過できるわけがない。日本の戦闘者足らぬものは、先ずは自立することだ。学校（啓蒙）教育やメディアの洗脳に侵されず、物事一つ一つを自らの体験をもとに自分の頭で考え、体験から導き出されたルールを自律的に確立し、他に頼らず主体的に行動する。それによって生じた結果を教訓として正すべきところは正し、善い成果はさらに改善を重ね、どんどん積み上げながら成長を重ねる。ここに、思想と行動の真の自由がある。また、倫理・道徳の養成は個人の人権を振り回しては出てこない。常に社会の中で他者とのかわりの中から生まれてくる。夫々の個性や能力、その時々的心情や体調を考慮して役割分担を適切にして、誰をリーダーにすべきか、夫々の立場をどうすべきかを調整し、心を合わせ一致団結協力して、全員の幸福を創造していく。ここに平等と民主主義のあるべき姿が生まれる。理論上の合理性ではなく、実体験から導き

出される自然の理合いこそが天の理になつた最適の社会となる。

一人一人が、自立していないくは「自由」も「平等」も「民主主義」もない。個人を優先させて良い社会ができるはずがない。良い社会をつくることに自らの理想と目的を求め、社会を構成する人たちと共に主体的に考え議論し、皆が胸に落ちる結論を導き、幼老、男女、能力、個性に応じた役割を分担して共働し、遙かな理想に向けて努力を為し続ける。この共助共生の道のりの過程こそが幸福な良い社会となる。

その中で、この社会の道のりを妨害する者がいれば、命をとって戦う者、それが日本の戦闘者となる。

現代は、まさに日本の戦闘者にとっては仕事があり余るほど在る、やりがいのある世の中だ。戦争が無い世界が平和なんて言うのは嘘っぱちだ。我々は今、弾の飛んでこない戦場にいる。毒入りの食い物と毒そのものの薬を与えられ、金とルールと情報の攻撃にさらされ、普通に生きて行けるはずの人々が普通に生きていけなくなってくる。これは平和な社会ではない。今我々は「新たなかたちの戦場」の中にいる。敵はそこいら中にウジャウジャいる。見分けがつかなくなったら自分を餌にしろ。正しいことを言って正しい行為をすれば、すぐに敵がかぶりついてくる。そこがお前の戦場となる。戦い方には頭を使え。勝つことが目的ではない。貴くことが目的だ。自分の周りにそんな日本の戦闘者がいたらお互いに助け合え。決して見捨てるな。自分だけ安全なところに隠れず共に戦え。日本は、日本の戦闘者であるお前と共にある。お前が日本だ。肉体を護るのではなく心を守れ。その心を継承する日本の戦闘者がいる限り日本は大丈夫だ。



令和5年正月の挨拶とさせていだいた一枚。

041